

奈良市公民館運営審議会会議録

平成 26 年 7 月 10 日会議

平成26年度第1回奈良市公民館運営審議会会議録

開催日時	平成26年7月10日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで	
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室	
議 題	1 新役員選出 2 平成25年度公民館事業実施状況及び利用状況について 3 平成26年度公民館事業計画について 4 平成25年度公民館大会についての報告 5 平成26年度公民館大会について 6 その他	
出席者	委 員	井内委員、大場委員、岡川委員、粕井委員、川村委員、権藤委員、島岡委員、竹原委員、田中委員、伏浦委員、宮辺委員、八木委員、吉田委員 【計13人出席】
	事務局	教育総務部長、生涯学習課長、生涯学習課課長補佐、生涯学習財団事務局長、生涯学習財団事務局次長
開催形態	公開(傍聴人0人)	
決定事項	—	
担 当 課	教育総務部 生涯学習課	
議事の内容		
<p>○委員の紹介等 出席者を紹介した後、会議への出欠状況を確認し、奈良市公民館条例施行規則第4条第2項に基づき、会議が成立することを報告</p> <p>○教育委員会の挨拶 教育総務部長から挨拶</p> <p>○新役員選出【案件1】 八木委員が会長に選出され挨拶。 奈良市公民館条例施行規則第3条第2項の規定により会長が議長に指名される。 大場委員、権藤委員が副会長に選出され挨拶。</p> <p>○会議録の署名について 議事に入る前に議長から今回の署名委員の指名及び確認(井内委員と岡川委員)</p>		

○平成25年度公民館事業実施状況及び利用状況について【案件2】

生涯学習課長 平成26年度4月1日より施行しております条例改正を2点ご説明いたします。

まず1点目、現在、公民館は奈良市内に24施設設置しております。この内、大型館であります生涯学習センター・中部公民館・西部公民館を除いた地区館21施設につきまして、開館時間の変更を行っております。これまで、公民館全24施設では、午前9時から午後9時までを開館時間としておりましたが、夜間の施設使用が常時ある大型館3館以外につきまして、午前9時から午後5時までを開館時間とさせていただきます。

続いて、2点目、公民館分館の1つであります都跡公民館尼辻分館につきまして、本年3月31日をもって閉館しております。こちらは、建物の老朽化が激しく、雨漏りや外壁の劣化が進み、耐震性の問題からも利用者の安全を確保できない状態になったためです。なお、当該施設の廃止後には、地元の方々から設置要望があがっておりました都跡地域ふれあい会館が建設される予定であり、今後はこちらを利活用いただく予定です。

財団事務局長 今年度、生涯学習財団も新しい体制になり、新たにスタートいたしました。今後ますます地域の皆様、市民の皆様の生涯学習、社会教育の場としてより一層の充実が図れますよう、職員一丸となって頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料1に沿って説明いたします。平成25年度の公民館利用状況は、生涯学習センターを含む24館で、総利用件数 41,835件、総利用人数 613,804人でした。昨年に比べ、件数で 3,813件、人数で 31,308人減少しています。しかしながら、これは、カウント方法を見直したことによるもので、同時に複数の部屋を利用された時、それぞれの件数・人数をカウントしていましたが、これを一つの件数・人数とし、また同様に、午前・午後を通して利用された時も、一回の利用としてカウントするように統一したため、年間約31,000人の減少となったものです。

次に、公民館事業として、事業件数434件、開催回数 2,225回の事業を実施し、受講定員12,029人に対して、延べ70,337名の方に受講をいただきました。7つの分類別に、幅広く主催事業を実施展開し、24年度と比較しますと、実施回数では16回の増、受講者は、延べ 9,835名の増となりました。

大型館については、施設の特徴や立地を生かした事業展開を図りました。生涯学習センターでは、昨年の『古事記』に引き続き『風土記』を取り上げて11回講座で実施した「古典文学講座」には、659名もの方に参加いただきました。又、今後の公民館事業をサポートいただく人材育成と知識・技術向上を目指した「託児ボランティアスタッフ学習会」を開催しました。中部公民館は、300人を収容できるホールを擁する利点や立地の利を生かし、専門家による歴史講座「奈良学セミナ

一」を開催し、5回の講座において延べ1,351名の受講がありました。西部公民館では、昼休み時間の体育室を利用して、ストレッチ教室を開催し、自由入場とし気軽に参加いただける形態をとったことにより、289回実施で、延べ8,711名の参加があり、広く利用者を増やす取り組みとして実施しました。

次に、地区公民館では、地域の特色、素材、課題に対応し、工夫をこらした事業展開に取り組みました。特色のある事業として、平成22年より現代課題の中から「高齢者」「男女」「青少年」「家庭教育」「共生」の5つを重点分野と定め、各公民館で、それぞれの地域の課題や現代的な課題解決にむけた事業に積極的に取り組むこととし、奈良市全域で展開いたしました。その中でも、分野ごとに特徴的な取組を、別紙に添付しております「25年度 重点分野別の特色のある事業」から紹介させていただきます。

高齢者分野につきまして、富雄南公民館の「からだノート」では、地域の高齢化が進む中、いつまでも健康的に長く公民館を利用してもらうことを目的に、自分の健康を考えようと、家庭でも取り入れられる体操やヨガなどをプログラムに全11回実施しました。毎回参加した方も5名おられ、継続して参加することにより、自分の健康への意識を高めることが出来ました。

男女分野につきまして、富雄公民館の「アナウンサーに習う大人の話し方」では、女性の社会進出が目覚ましい一方で、依然として男性優位な職場も多い現状に対して、女性のキャリアアップの一助になることを目指して開催しました。参加者が一人ずつスピーチする時間も毎回あり、実践的な内容で、講師が一人ひとりの指導で改善点を伝え、良い点を褒める形をとられたことにより、受講者それぞれが「自分の強み」を知ることができ、すぐに活動の実践に使えると好評をいただきました。

また、共働きや高齢者夫婦世帯の増加などにより、男性の家事への参加が進んでいる昨今、平城東公民館の「男の家事道」では、基礎的な家事のポイントを知り、楽しみながら、掃除・洗濯・料理を学び、生活の質の向上を目指しました。参加者からは、「実生活に役立つ。」「復習の機会があればいい。」などの感想をいただき、今後の生活に直接生かしていける講座と好評を得ました。

青少年分野につきまして、平城西公民館の「わくわく！チョウさがし隊」では、地域の小学生に虫かごや虫あみを持って野原を駆け回る機会を提供し、楽しく遊びながら珍しい蝶や昆虫を探す体験を通して、自然との共存の大切さや難しさを学ぶことを目的に実施しました。講座回数を重ねるたびに、自分たちの暮らす地域の生態系に興味を持ち、蝶や昆虫を通して季節の変化を身近に感じ自然との共存の大切さを学ぶことができました。

家庭教育分野につきまして、中部公民館の「子育て力アップ講座～気持ちラクちゃん・ゆったり育児～」では、ゆっくと焦らずに子どもの気持ちに寄り添う方法を学ぶための講演会を実施しました。託児を導入したこともあり、たくさんの受講者

があり、アンケートからは、「育てることに必死で寄り添いの言葉が減っていることに気付いた。」「ゆったり育児は自分にも優しくなれる気がした。」などの声が多く聞かれ、満足いただくことが出来ました。

また、平城公民館の「みんなの知識をフル活用！親子で体験防災講座」では、アウトドア流防災ファシリテーターを講師に招き、災害時に本当に使える知識やグッズについて講演をいただきました。災害に備えて特別な準備をしておくのではなく、日常生活の延長上に防災・減災を見据えることや、身近な品を応用することで災害時にも対応できる技術など、日常の中で防災を考えることを教えていただき、好評を得ました。

共生分野につきまして、富雄南公民館の「スペインの食文化を学ぼう！」では、地域に外国人やその子どもが増えつつあり、外国の文化や習慣を学ぶことで、多文化共生につなげることを目的に開催しました。スペイン出身の講師から、スペイン料理を学び、食習慣や文化の違いについても理解を深めることができました。また、託児を設けたことにより、20～30代の子育て中の方の参加も多く、公民館の講座に興味を持ってもらうきっかけの講座にもなりました。

また、登美ヶ丘南公民館の「チャレンジキッズ」では、夏休みの地域教育の一環として、環境学習と子どもたち同士の交流・親睦を目的に開催しました。身近な自然にある葉っぱを使っての工作により自然と環境の事を学ぶことができました。

以上、8つの講座の紹介をさせていただきましたが、25年度は24館におきまして、434件の講座を開催いたしました。

続いて、生涯学習支援活動事業についてご報告します。生涯支援活動事業とは、別途、市の委託を受けて実施しているものです。

1つめは「奈良ひとまち大学」です。別添の開催要項をご覧ください。「奈良ひとまち大学」は、奈良に暮らす20代～30代の若い人が、世界に誇る奈良の魅力を再発見する学びの場を創るという目的のもと、実施しています。奈良市を丸ごとキャンパスに見立て、奈良で魅力的な人に出会い、奈良の町の文化・自然・モノに出会い学ぶという考えで、今までになかった新しい学びの場を提供しています。

平成22年9月に開校して以来、財団職員でプロジェクトチームを結成し、職員の専門性、ネットワークを活用して、毎月第4土日を中心に事業計画し、25年度は特別授業を含め、37回実施し、今までの総授業は、140回の実施となりました。日頃、公民館になじみの少ない20代～30代をターゲットにし、市内の色々な場所を活用し、公民館ではできない一味違った授業を実施しました。25年度も回を重ねるごとに人気が増し、知名度と評価も上がってきており、開校以来の延べ受講者数は、3,612人となりました。

次に「奈良市子育てスポット事業」についての資料をご覧ください。この事業は、子ども育成課から委託を受け、11の公民館で毎月2回実施しました。概ね0

～3歳児とその保護者を対象に、子育て中の親同士の交流、悩みの共有、専門的なアドバイス等を行い、また、子育てから離れ自由な時間を持ってもらおうという事業です。25年度は、5,516人の参加があり、その実施主旨である、子育て中の親同士の情報交換や子育てストレスの緩和などの満足度が高いので、これをきっかけにして保護者の公民館利用に繋がりたいと考えております。

次に「生涯学習フェスタ2014」についてご報告いたします。お手元に配布しております「生涯学習フェスタ2014」のパンフレットをご覧ください。公民館活動の1年間の集大成として、公民館で1年間学んだことの発表の場として、毎年開催しています。また、公民館の活動を広く市民の皆さんに発信し、活動を知っていただき、そして、学ぶ仲間同士の交流を図ることを目的に実施しました。2014年は「公民館で見つけよう！学ぶよろこび」をテーマにして、様々な発表や体験コーナーを設置し、2日間にわたり広く展開しました。記念講演会として、奈良ひとまち大学の特別授業を開催したこともあり、たくさんの参加をいただき、これまで公民館の利用をしたことがなかった人たちにも公民館の事業・取組を広く発信することができました。

これらの取組を通して、高まる市民の学習意欲と多様なニーズに対応し、市民の立場に立った施設運営を行い、地域における「学びの場」「地域づくりの拠点」としての機能を強化し、市民の学習活動を促進するとともに、地域の学校や各種団体・関係機関との連携を図り、地域の課題解決に向けての支援に努めることが出来たと考えています。

○平成26年度公民館事業計画について【案件3】

財団事務局長 26年度も学習機会の場の提供、さらには地域の皆さんの自主学習の支援、また、地域の活動の拠点として地域の課題に対応し、各団体との連携を図って事業展開をしていきます。事業計画については、公民館要覧をご覧ください。

26年度の事業予定件数は383件、回数は1,564回、募集定員は8,611人を計画しております。加えて自由入場の講座もありますので、更に多くの皆さんに参加いただけたと考えております。講座内容については、今までの実施状況を踏まえて、それぞれ内容に工夫を加え、「高齢者」「男女」「青少年」「家庭教育」「共生」5つの重点項目に沿って96講座の新規事業を取り入れ、新しい視点からの、地域のニーズにあった、地域課題の解決に向けた事業を、今年度も各公民館で積極的に展開していきたいと考えています。

次に、26年度の自主グループの登録については、平成26年6月現在で1,722団体と、各分野で自ら学ぼうというグループが昨年を上回るグループ数の登録をいただき、継続しての活発な活動を期待しているところです。

次に、「奈良ひとまち大学の26年度開催要項」をご覧ください。奈良ひとまち大学は、今年度も奈良の魅力的な人とまちを紹介しながら、多くの方に奈良の魅力を発信し続けたいと考えております。奈良市をまるごと大学のキャンパスにみたくて、5つのシリーズと特別授業を合わせて、全38回を予定しています。これらの授業により、その素晴らしさ、おもしろさ、そして魅力を感じ、私たちが暮らす「奈良」の凄さを感じてもらい、奈良への愛着を深めてもらうとともに、奈良市全域の地域の活性化をも目指して実施いたします。

次に、平成26年度の子育てスポット事業は、昨年同様、11館で実施いたします。各館で毎月2回、計24回の事業を実施し、子育て親子の交流・相談の場の提供や、子育て情報の交換の場を提供します。

最後に、「生涯学習フェスタ2015」は、自主グループの活動発表の場に留まらず、公民館を知ってもらうきっかけ創りや、いろいろな人々に学びの楽しさや喜びをもっともっと知ってもらいたい！との思いを込めて「公民館からつながる学びの和」をサブタイトルにして、広く市民に発信することを目的に実施したいと考えております。

以上の事業を通しまして、今年度も奈良市および地域の、教育力の向上と活性化に努めてまいります。

○平成25年度公民館大会についての報告【案件4】

・第35回全国公民館研究集会

平成25年10月17日(木)～18日(金)

委員 台風の最中ではありましたが、北海道で開催された全国公民館研究集会に参加いたしました。テーマは、地域を育む公民館活動、コミュニティづくりに求められる公民館のあり方でした。

はじめに、文部科学省社会教育課の坪田課長から、公民館の現状と今後の方向性についてお話されました。まず公民館は、終戦の翌年である昭和21年に、文部省社会教育課の寺中課長が、公民の館を作り、地域の人材づくりが必要であると切望され、市町村の文化施設として作られたのが始まりということです。しかし、老朽化や耐震性や合併などで、年間200施設ほどがなくなっているのが現状だそうです。今後の方向性については、企業が休みの土曜日に、その人材をゲストティチャーとして活用することを挙げられました。また、これは学校でも可能であるということでした。そして、公民館が地域の中で力を発揮するために必要な3つの事として、資料の3点を挙げられました。

次に、記念講演としては、脚本家の倉本聡氏が、当たり前の暮らしを求めてというテーマで講演されました。先生は現在、富良野市の山の中にお住まいで、先

生を慕って来られる方も多いそうです。発表の内容は、報告書のとおりですので、お目通しください。

次に、今までの分科会にあたるスーパー塾では、高齢者を核としたコミュニティづくりをテーマとしたものに参加しました。愛媛大学名誉教授・高松大学客員教授の讃岐氏が塾長として講話をされ、ご自分が公民館に足を運ばれたきっかけから、子ども会の衰退・学校の統廃合、反対に敬老会の繁栄・老人ホームの増設と、少子高齢化社会となった中でのコミュニティ作りと公民館について話されました。まず、多くの団体は個々に活動していて、お互いに孤立している。風呂敷型にして、いろいろなものを包み込んでどうか、それが公民館の役割だということでした。次に、高齢者自身、必要とされるように自立し、孤立から連帯へ、そう導くのが公民館である。そして、コミュニティ作りの公民館の三側面として、よりどころづくり・ねうちづくり・しくみづくりを挙げられました。また、公民館が地域の中で力を発揮するためには、地域のニーズを把握すること、実生活に則する教育、人材育成、関係団体のネットワーク化をあげられました。

最後に実践発表では、島根県教育庁の山本社会教育主事が、3つの公民館の実践発表をされましたが、松江市の公民館の災害時における支援体制作りが目新しく思いました。それは、まかせて会員とおねがい会員という制度があって、そのどちらかに登録するものです。それぞれの研修や合同研修を行うことで、互いの気持ちがわかるとともに、自分たちの地域は自分たちで守るというふうに発展しているということです。また、地域のことに気づき、人間関係ができてきて、公民館に行くのが楽しくて待ち遠しくなるという効果もあったそうです。

様々な公民館のあり方や理想を聞いて、公民館は難しいと思うとともに、今やなくてはならない存在となった公民館を、一層幅広い利用層の公民館作りが必要であると思いました。

・第61回近畿公民館大会及び第61回奈良県公民館大会参加報告 11月14日(木)～15日(金)

委員 公民館を定期的にご利用している者として、運営にも興味があり、大会に何度か参加させてもらっています。まず分科会は、地域とつながる公民館というテーマの第6分科会に参加しました。滋賀県高島市の公民館では、町村合併前、当時の社会教育課と一体となり、地域にあった社会教育事業を推進してきましたが、合併後には1地区1公民館となり、多くの公民館が予算も人員も大きく削減されて大変な状況になり、地域公民館がどのような取り組みが出来るのかという話でした。

また、その話の中で、公民館が運動会を主催しているという話がありましたが、市民は社会教育課が関わっていると思っており、公民館のみが主体的に関わっていることを知らないのではと不安に思っておられることに疑問を感じました。私の知っている公民館事業は、公民館独自の講習会、貸館事業、人権研修、自主グループの発表会、子育て支援などで、地域の人を巻き込んだ催しはなされて

いないように思われます。普段、大型館の中部公民館を使っているため、もしかしたら各中学校区の地区公民館はやっているのかもしれませんが、奈良では、各公民館が地域に根ざしている姿があまり見受けられないように思いました。

質疑応答では、キャンプなどの事業を計画しても、根本的な少子化の影響や、子どもの忙しさや安全を理由に人が集まらない現実があり、事業を行うことの重要さはわかるが、実施することの難しさや地域に根ざすことの難しさを、どの人も訴えていました。

また、討論の中で公民館の職員数等を聞かれても返事ができませんでしたが、分館は自治会が管理しており、子ども達と触れ合ったり地域に根ざそうと努力していると話すと、他の方々から分館があつてよかった、頑張つて欲しいという声をいただきました。そして、職員ではなく、公民館運営審議会の委員として出席しているけれども、もっと公民館の事を勉強して大会に参加すればよかったと思いました。

全体会では、薬師寺の村上副住職のお話で、過去に公民館運営審議会の委員をされていたそうで、親しみを感じる中での絆のお話でした。その中でショックだったのは、最近、病院で亡くなった人が家に戻らず、直接火葬場に送られるという話で、お寺としても情けない話だとおっしゃられました。そして、1,000組中7組しか結婚式の仲人がいないなど、昔から考えるとびっくりするような現実があり、人間同士の関わりの少なさを話されました。

そして、「人と人の間が人間、世と世の間が世間」というわかりきった言葉から、人間関係を大事にする必要性を強く感じました。孤食ではなく、家族と一緒に食卓を囲むことが絆であり、また家族の中でも、おじいちゃんとおばあちゃんが「ありがとう」ということの大切さを伝え、それを孫が見て学んでいくことが大事であり、人とのふれあいで生きる力が得られるというお話をいただき、私自身、もっと人とつながっていきたく感じました。

○平成26年度公民館大会について【案件5】

事務局から、第36回全国公民館研究集会と、第62回近畿公民館大会、第62回奈良県公民館大会について詳細を説明し、全国公民館研究集会については大場委員が参加することを決定。奈良県公民館大会については、田中委員と宮辺委員が参加することを決定。なお、近畿公民館大会は希望者が不在のため、事務局と会長で出席者を調整することで決定。

○その他【案件6】

議 長 その他ですが、皆様、なにかご意見ご要望等ございませんでしょうか。
 ないようでございますので、これを持ちまして、平成 26 年度第1回奈良市公民館運営審議会を終わらせていただきます。委員の皆様本当にありがとうございました。

資 料

会議次第
委員名簿
平成26年度公民館要覧及びその他事業資料
平成25年度公民館大会の報告資料
平成26年度公民館大会の資料